

旧芝離宮恩賜庭園

Kyu-Shiba-rikyu Gardens

江戸の風雅、壮麗な石組み



スタンプ欄

国指定名勝 旧芝離宮恩賜庭園

- 開園年月日
大正13(1924)年4月20日
- 開園面積
43,175.36㎡
- 開園時間
午前9時～午後5時
(入園は午後4時30分まで)
※イベント開催期間などで
時間延長が行われる場合もあります。
- 休園日
年末年始(12/29～1/1)
- 無料公開日
みどりの日(5月4日)
都民の日(10月1日)
- 庭園ガイド(無料)
土、日曜日(午後2時)

【お問合せ先】
旧芝離宮恩賜庭園サービスセンター
☎03-3434-4029
〒105-0022 東京都港区海岸1-4-1

入園料	個人	団体 (20名以上)	年間パスポート (旧芝離宮恩賜庭園)	年間パスポート (9庭園共通)
	一般	150円	120円	600円
65歳以上	70円	50円	280円	2,000円
無料	小学生以下(要付添)及び中学生(都内在住もしくは在学) 身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳 または療育手帳持参の方と付添の方			
浜離宮恩賜庭園・旧芝離宮恩賜庭園「園結びチケット」 一般 400円 65歳以上 200円				
施設	弓道場 (和弓用)	開場時間 9:00～16:00 140円/1時間	※道具はお持ちになってください。 また、指導員はおりません。	

※月曜日(祝日の場合は翌日)の午前中は整備のため利用できません。
※毎年、年末年始にかけて場内整備のため定期閉園いたします。※詳細については、お問い合わせください。



【交通のご案内】
《電車》
JR山手線京浜東北線「浜松町」
(北口)下車
徒歩1分
都営浅草線・大江戸線「大門」
(B2出口)下車徒歩3分

※駐車場はありません。

公園へ行く!
発行:文化財庭園課 TEL.03-3232-3018

検索

お客様サポートセンター(協会事業全般に関するお問い合わせ)
TEL.03-3232-3038 ※8:30～17:30(土・祝日、年末年始を除く)
指定管理者 公益財団法人 東京都公園協会
https://www.tokyo-park.or.jp



文化財庭園へご来園の皆様へ

都立庭園は、江戸、明治、大正時代から続く歴史・文化・自然を兼ね備えており、いずれも国や都の文化財に指定されています。

震災や戦災、進む都市化の中で残された貴重な存在であり、この貴重な存在がよりよい状態で後世に残るよう、皆様にご理解とご協力をお願いいたします。

【庭園からのお願い】

- ペット(動物)を連れてのご入園、園内の動植物の採集、敷物の利用、酒類の持込みはご遠慮ください。
- 写真撮影、写生は建物・添景物保護のためにお断りする場所があります。
- 文化財は定期的な保存修理工事を要することがあり、一部ご観賞いただけない部分があります。

都立文化財9庭園

- 浜離宮恩賜庭園
- 旧芝離宮恩賜庭園
- 小石川後楽園
- 六義園
- 旧岩崎邸庭園
- 向島百花園
- 清澄庭園
- 旧古河庭園
- 殿ヶ谷戸庭園

えどしょうよう 江戸逍遥

小石川後楽園とともに、今に残る最も古い大名庭園のひとつです。典型的な「池泉を中心とした回遊式庭園」で、その地割りと石組は秀逸です。この地はかつて海面でしたが、明暦(1655～1658年)の頃に埋め立てられ、延宝6(1678)年に老中・大久保忠朝の邸地となりました。忠朝は上屋敷を建てる際に、藩地の小田原から庭師を呼び寄せて作庭し、これを「楽壽園」と命名しました。

その後、数氏を経て、幕末には紀州徳川家の芝御屋敷となりました。明治4(1871)年に有栖川宮家の所有になりましたが、同8(1875)年に宮内省がこれを買上げ、翌年に芝離宮となりました。大正12(1923)年の関東大震災によって、建物と樹木のほとんどが焼失しましたが、翌13(1924)年1月、昭和天皇のご成婚記念として東京市(都)に下賜され、庭園の復旧と整備を施して、同年4月に「旧芝離宮恩賜庭園」として一般に公開されました。昭和54(1979)年6月に「旧芝離宮庭園(文化財指定名称)」として国の名勝に指定されています。



せいこ つつみ 西湖の堤

中国の杭州(現在の浙江省)にある西湖の堤を模した石造りの堤。堤の先にある中島の石組は、楽壽園の頃からのものです。

なか じま 中島

園景の要となる箇所、池の中央にある中島です。中国で仙人が住み不老不死の地といわれる霊山を模した蓬莱石組となっています。



かれ たき 枯滝

山峽を流れ落ちる滝を彷彿とさせる石組み、流れの河床が園路になっていて、景観の変化を楽しむことができます。



おお やま 大山

庭園内のもっとも高い築山で、頂上からの眺めが見事です。また、左右の築山と構成される稜線の変化は、池の対岸から見ると味わい深いものがあります。



大山からの大泉水の眺め

だい せん すい 大泉水

庭園の要となる約9,000㎡の広さをもつ池です。昔は海水を引き入れた潮入りの池でしたが、現在は淡水の池になっています。池は中島と浮島を配して海と湖を形どり、一画には小さな州浜が設けられています。



海水取入口



雪見灯籠

ふじ だな 藤棚

庭園の入口付近には大きな藤棚があります。4月下旬頃、紫色の大きな花房がさがり、芳香を放ちます。

車いす通行可ルート

0m 30m